

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：34302

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K12789

研究課題名(和文)マンガが伝えるメキシコの歴史と文化：情報発信ツール開拓への挑戦

研究課題名(英文) Learning Mexican Prehistory and Culture through Manga: Public Archaeology as Action in Tlalancaleca

研究代表者

嘉幡 茂 (Kabata, Shigeru)

京都外国語大学・京都ラテンアメリカ研究所・客員研究員

研究者番号：60585066

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：メキシコにおいて、マンガを用い古代文化遺産や学術研究成果をより多くの人々に理解してもらい、日本政府の文化貢献活動を広く認知してもらうことが本研究の第一の目的である。しかし、本研究はマンガを作成し、多くの人にこれを閲覧してもらうことが最終目標ではない。閲覧前後で文化遺産や歴史そして日本政府の貢献度に関する意識調査を行い、より効果的な方法論やコンテンツを開発することが最終目的である。現地で実施したアンケート調査の結果、マンガの利用は、教育普及媒体として十分な有効性があると認識できた。一方、日本政府の貢献度の周知に関してはいまだ不十分とは言えず、継続した活動が求められるとの結論に至った。

研究成果の概要(英文)：The primary objective of our research is to promote an understanding of ancient cultural heritage and academic research outcomes through Manga (Japanese style comics), and to widely disseminate Japanese government's activities regarding cultural contribution in Mexico. While producing manga and distributing it widely in local communities is an important first step, it is not our final goal. Our main aim is to develop more effective methodologies and contents of the comics through conducting questionnaire survey about cultural heritage, history, and the contribution of the Japanese government before and after reading our products. The result of the questionnaire survey carried out locally has demonstrated that the utilization of comics is highly effective as a medium for educational dissemination. Meanwhile, it was not sufficient to enhance public awareness on the extent of the contribution of the Japanese government, which lead to the conclusion that continued efforts are necessary.

研究分野：メソアメリカ考古学

キーワード：地域支援 文化遺産 文化人類学 トラランカレカ マンガ 考古学 地域連携教育 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初の背景と社会的問題点

研究代表者は平成 24 年度より若手研究 (A: H24-26) 研究費を基に、メキシコ合衆国トラランカレカ遺跡で考古学調査を実施している。この遺跡は学術的に重要でありながら、1970 年代以降、組織的な調査は行われなかった。遺跡が村の共有耕作地として利用されており、学術目的といえども部外者の進入を拒む傾向が強いことが一因である。閉鎖性の緩和と研究への理解を求め、研究代表者は調査を開始する際、必ず土地管理組合の人々に対して、何故日本人がこの地を調査するのか、地域社会にはどのような恩恵があるのかなどについて説明会を行っている。

しかし、彼らの先祖の社会を復元することで可能となる、深い歴史認識や文化遺産の保存を力説しても、彼らからの反応は消極的である。日本またはメキシコ政府が遺跡保存という名目の下、地域住民から土地を取り上げるのではないかと危惧しているからである。そして、このような心理的動向には、3つの要因が働いている。

- A) メキシコ政府が義務教育課程の中で古代史の授業に割り当てる時間を極端に減らしているため、国民全体が古代文化に対する知識や興味を失っている。
- B) 1990 年代初めまでメキシコの義務教育課程は小学校までであり、特に農村部の国民は専門用語を用いた雑誌や記事の読解力が充分ではない。これは、彼ら自らが書物を通して文化遺産や歴史について知ろうとする気力を失わせている。
- C) メキシコは古代文化遺産の宝庫であるため、日本、アメリカ、フランスなどの国際調査団が頻繁にフィールド・ワークを実施している。その成果を学術誌や国際学会などの場で公表しているが、メキシコの一般市民を対象とした広報活動や成果発信は乏しい。その結果、地域社会の人々にとって、我々海外から来る研究者は母国の利益のみを優先させる存在としか映らなくなっている。

若手研究 (A) では、メキシコ人研究協力者の活躍もあり、地域住民から徐々に信頼を獲得し調査自体は順調に進展している。しかし、調査が終了する 27 年度以降、彼らには何が残るのだろうか。

異文化理解や共生が重要となっている今日、学術成果の発信先を母国や学問専門領域に求めがちな我々研究者にとって、地域社会の人々を理解し、彼らにその成果を還元する方法を模索し開発することが求められている。

(2) 海外調査を行う上で派生する倫理問題

現在、研究倫理に関する議論が盛んであり、その方向は主に 2 つの対象 (被験者と研究者) に向けられている。人 (動物) を研究対象とする際の命の尊厳や人権問題そして個人情報取り扱い方が挙げられ、一方で研究者自身の不正行為に主眼が置かれている。しかし、本研究が含まれる、人や生命を対象としない

研究分野における倫理問題の提起や議論は乏しい。それは、これらを対象に調査したとしても、文化を継承する末裔に人権問題などが発生する危険性が少ないと判断されることにあるだろう。

しかし、ここには別種の問題が存在している。それはアイデンティティーの問題である。

メキシコ・中米諸国では、16 世紀にスペインによって征服された歴史的事実と、その後の特異な民族抗争史がもたらした文化的混血から、社会成層や人権問題が複雑となり不安定なアイデンティティーが形成されている。特にメキシコ政府は国民を統一するため、古代遺産をナショナリズムの形成に利用している。しかし、利用される古代遺産は巨大なピラミッド建造物や経済的価値の高い副葬品であり、これらは歴史コンテクストから切り離されている。

「偉大な古代→その征服→複雑な現代メキシコ」と言う図式の中で、歴代の政府は「その征服」とそれに付随する悲惨な歴史を克服し、一つのメキシコを構築する心的装置を開発できずにきた。結果、多くの一般国民は、偉大な古代文明の継承者であるという正の側面と滅ぼされた文明の民という負の側面を併せ持つことになっている。

外国人である私たちが彼らのアイデンティティーのシンボルであるピラミッドや文化遺産を何故研究するのかに対し、明確な答えを持たず、またそれを彼らの言葉で説明できなければ、調査結果は母国と一部の知識階層にのみ行き渡り、海外研究はいずれ従属論的な性格を持つものとなるだろう。

私たち海外にフィールドを持つ者には「持続可能な研究と教育」という視点が必要だと考える。研究対象物を継承する者の尊厳やアイデンティティーに留意し、地域社会に波及する影響力を考慮する倫理的姿勢に則り調査を行うことで、日本政府が支援する海外研究と文化貢献が活かされる。そして、両国に等しい研究成果と文化発展が期待されると考える。

2. 研究の目的

メキシコにおいて、マンガという手法を用いて、古代文化遺産や学術研究成果をより多くの人々に理解してもらい、日本政府の文化貢献種を広く認知してもらうことが本研究の第一の目的である。研究者自身が情報の発信先を一般市民と設定し、その媒体としてマンガを用いる手法は斬新であり、この方法を構築するため、メキシコ合衆国プエブラ州トラランカレカ行政区で文化人類学調査を実施し、媒体の中で取り上げるトピック (合計 4 編) を決定した。しかし、本研究は、マンガを作成し、多くの人にこれを閲覧してもらうことが最終目標ではない。閲覧前と後で文化遺産や歴史そして日本政府の貢献度に関する意識調査を行い、この媒体の有効性を研究し、より効果的な方法論やコンテンツを開発することが最終目的であった。



図1 マンガの表紙



図2 マンガの一例

3. 研究の方法

本研究は2年間で実施され、2名の研究分担者と4名の研究協力者の協力により実施された。

国内ではメキシコ現地調査の準備(アンケート作成、マンガの構成)、マンガ作成、総合解釈、成果発表(論文執筆、学会発表、HP作成)を行い、メキシコではアンケート・文化人類学調査の実施、ならびに子供たち向け

にマンガ講演会を行った。

研究活動が多岐にわたるのは、本研究の目標が単にマンガの完成を目指すものではなく、上記の活動を基に、情報発信媒体としての効率的な利用法や方法論の確立にあったことによる。

平成29年2月にサン・マティアス・トラランカレカでマンガを配布し、これ以前の27年8月と以後の29年3月にアンケート・文化人類学調査を実施した。これらの調査結果から、メキシコにおける一般市民への文化理解促進、学術成果の還元、日本政府の研究費を基にした文化貢献の周知を可能とする方法論の開発を行った。

一方、マンガは日本語とスペイン語で作成され、サン・マティアス・トラランカレカに住む人々だけでなく、多くに閲覧してもらうため、YouTubeで配信している。



Questionario: En torno al MANGA(cómic) Tlalancaleca

Febrero / Marzo 2017

Objetivo: Nosotros somos investigadores japoneses y mexicanos¹ y llevamos a cabo un estudio sobre la historia y la cultura de San Matias Tlalancaleca y La Pedrera. Realizamos sobre todo las excavaciones en La Pedrera con el objetivo de contribuir en el desarrollo regional y la educación de la comunidad. Para mejorar nuestra investigación, necesitamos tu colaboración.

Género 1. femenino / 2. masculino
Edad _____
Grado de escuela 1. Preparatoria / 2. Secundaria / 3. Primaria

A. PREGUNTAS SOBRE EL MANGA (CÓMIC)

Marca un círculo (○) alrededor del número que corresponde a tu opinión.

- A1. ¿Leíste el MANGA(CÓMIC) TLAYECOLTIA? 1. SÍ / 2. NO
- A2. Si marcas SÍ en la cuestión A1, ¿por medio de qué formato leíste el MANGA?
 1. Formato impreso / 2. Internet(YouTube)
- A3. Si marcas SÍ en la cuestión A1, ¿te gustó el MANGA(Cómic)?
 1 2 3 4 5
 nada un poco regular mucho bastante
- A4. Si marcas SÍ en la cuestión A1, ¿qué parte te gustó más del MANGA?
 Escribe en concreto...
- A5. Si marcas SÍ en la cuestión A1, ¿hay partes que no pudiste entender bien?
 Escribe en concreto...
- A6. Si marcas SÍ en la cuestión A1, el MANGA consiste de 4 tópicos, ¿cuáles has leído?
 Si te gustaron más de dos tópicos puedes marcar varios.
 1. Tópico 1 / 2. Tópico 2 / 3. Tópico 3 / 4. Tópico 4
- A7. Si marcas NO en la cuestión A1, ¿por qué no has leído el MANGA?
 1. No lo sabía / 2. No tuve tiempo / 3. No me interesó /
 4. Otra razón()

¹ Somos un equipo de investigadores, de la Universidad de Las Américas Puebla, la Universidad de Estudios Extranjeros de Kioto, y la Universidad de Estudios Extranjeros de Kansai, Osaka.

図3 アンケート調査用紙の一例

4. 研究成果

サン・マティアス・トラランカレカに設立されている合計6つの小中高等学校で、アンケート調査を実施し、1452名からの回答を得られた。児童や学生だけでなく、便宜を図ってくれた教員からの協力も得られ、回収率は90%以上であり、データとしての利用価値は申し分ない結果となった。

マンガの読前・読後では、当初予想していたように、日本人考古学者が遺跡を調査することに関して、好意的に捉える傾向が強くなった。

一方、10名の村人たちに聞き取り調査を行い、より深い意見を聞くこともできた。多く

はアンケート結果と同様に、警戒心が解かれた意見であった。しかし、中には「何も調査などせず、放ってほしい」との意見もあった。

嘉幡 2017 と小林 2017 の論考は、これらのデータを基により深い考察を加えたものであるため、そちらを参照して頂きたい。

本課題研究の成果として、マンガという媒体は十分に機能するものであり、続編を待つ村人も多い。一方で、地元メキシコの先史時代を復元する上で、重要な遺跡があるにもかかわらず、この存在を知らないものが多かったことも把握できた。

継続していくことによって、地域住民への研究成果の周知、「持続可能な研究と教育」や日本政府による学術貢献の達成が、より一層強まるという認識が得られた。この意味において、本課題研究は、挑戦的萌芽研究としての責務を十分に果たしたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

嘉幡茂、マリア・フェルナンダ＝デ・ラ・エルナンデス、フリエタ・マルガリータ＝ロペス・ファレス、マンガが伝えるメキシコの歴史と文化：情報発信ツール開拓への挑戦、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 13、2017 年出版予定、pp.1-10。

小林貴徳、メキシコにおけるマンガ：教育普及媒体としての将来性、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 13、2017 年出版予定、pp.11-20。

嘉幡茂、メキシコの考古学事情(前編)、『考古学ジャーナル』、査読無、Vol. 689、2016 年、pp.31-33。

嘉幡茂、メキシコの考古学事情(後編)、『考古学ジャーナル』、査読無、Vol. 692、2016 年、pp.32-34。

嘉幡茂、メキシコで考古学調査を行う意義と課題 - 「トラランカレカ考古学プロジェクト」を介して -、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 11、2015 年、pp.1-11。

嘉幡茂、村上達也、古代メソアメリカ文明における古代国家の形成史復元：『トラランカレカ考古学プロジェクト』の目的と調査動向、『古代文化』、査読有、Vol. 67、2015 年、pp.99-109

小林貴徳、守るべき遺産、活用すべき資源：メキシコ、 Cholula における文化的景観をめぐる行政と市民連携、『古代アメリカ』、査読有、Vol.18、2015 年、pp.103-116。

福原弘識、考古学者による古代遺跡の資源化とそのジレンマ：国家的モニュメントとしてのテオティワカン、『古代アメリ

カ』、査読有、Vol.18、2015 年、pp.131-142。

〔学会発表〕(計 4 件)

村上達也、嘉幡茂、なるほど！マンガが生み出す古代遺産～メソアメリカ史を描き換える～、2016 年 8 月 28 日、第 8 回世界考古学会議 京都開催記念講演会、京都文化博物館、京都。

小林貴徳、嘉幡茂、メキシコにおける歴史教育の現状と課題 - 郷土史と文化遺産を伝える学習マンガ創出の試み -、日本マンガ学会第 16 回大会、2016 年 6 月 25 日、東京工芸大学、東京。

嘉幡茂、マンガが伝えるメキシコの歴史と文化、日本ラテンアメリカ学会第 37 回大会、2016 年 6 月 4 日、京都外国語大学、京都。

小林貴徳、地域遺産を子どもたちの手に - メキシコ、トラランカレカにおける学習マンガ導入の試み、日本ラテンアメリカ学会第 37 回大会、2016 年 6 月 4 日、京都外国語大学、京都。

〔その他〕

マンガの出版

嘉幡茂(作) 坪井美和、窪田有華(画)、「トラジェコルティア」トピック 1：考古学って何？：古代人の知恵、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 13、2017 年出版予定、pp.21-35。

嘉幡茂(作) 坪井美和、窪田有華(画)、「トラジェコルティア」トピック 2：探偵ミリアム：盗掘者？考古学者？、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 13、2017 年出版予定、pp.36-51。

嘉幡茂(作) 坪井美和、窪田有華(画)、「トラジェコルティア」トピック 3：ラ・ペドレーラの不思議：太陽と人と、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 13、2017 年出版予定、pp.52-67。

小林貴徳(作) 坪井美和、窪田有華(画)、「トラジェコルティア」トピック 4：春分の日が起こった出来事、『MUC 京都外国語大学・国際文化資料館・紀要』、査読無、Vol. 13、2017 年出版予定、pp.68-83。

ホームページ等

本課題研究で作成したマンガ 4 編を日本語とスペイン語で以下の媒体を通じ公開している。2017 年 2 月 14 日より公開開始。

YouTube (日本語)

https://www.youtube.com/watch?v=d9mmOZgmMqg&list=PLcsEq4YhlnFHzmMfGN4_PXF9_U4IVb3-Q

YouTube (スペイン語)

<https://www.youtube.com/watch?v=DNwcb>

[Aw2gNk&list=PLcsEq4YhlnFHTLxQURnh5v0m6y6i01KV0](http://www.kyushu-u.ac.jp/~aw2gNk&list=PLcsEq4YhlnFHTLxQURnh5v0m6y6i01KV0)

ラジオ出演

Kabata, Shigeru, y Julieta López, Radio BAUP“Así lo dijo Duchamp”, 2016年4月12日、プエブラ荣誉州立自治大学、プエブラ市、メキシコ合衆国。

6. 研究組織

(1)研究代表者

嘉幡 茂 (KABATA, Shigeru)
京都外国語大学・京都ラテンアメリカ研究所・客員研究員
研究者番号：60585066

(2)研究分担者

小林 貴徳 (KOBAYASHI, Takanori)
関西外国語大学・短期大学部・英米語学科・助教
研究者番号：90753666

福原 弘識 (FUKUHARA, Hironori)
埼玉大学・教育機構・非常勤講師
研究者番号：10725956

(4)研究協力者

坪井 美和 (TSUBOI, Miwa)
神戸芸術工科大学・まんが表現学科・実習助手

窪田 有華 (KUBOTA, Yuka)
神戸芸術工科大学・まんが表現学科・実習助手

村上 達也 (MURAKAMI, Tatsuya)
テュレーン大学・人類学科・准教授

フリエタ・マルガリータ＝ロペス・ファレス (LÓPEZ JUÁREZ, Julieta Margarita)
メキシコ国立自治大学・メソアメリカ研究学科・博士課程後期